

一致しており、当法人の活動を次の段階へ導く運命的な出会いであったと思います。

2016年～2024年はコロナ禍により、(次面につづく)



## 環境共生モデル（一面よりつづ）

現地での作業が停滞しましたが、その間、私たちは日本での宮脇式植樹活動に従事し、研鑽を積みました。同時にレダ現地でも、チャコ地方の潜在植生である、ケブラツチョ、アルガロボ、パロサントなどの種子を採取・育苗し、本格的な森づくりの準備を進めました。そして2025年6月と10月、ついに現地に植樹チームを派遣。パンタナールおよびチャコ地域においては史上初となる宮脇式植樹を、レダの地で実施することができました。



昨年6月に宮脇式でレダに植えた木々の5か月後。

を重ねていきます。  
4 持続可能な経済圏を、自然と共生する「コミュニティから創出する」

持続可能な未来を実現するために、植樹活動を単なるNGOの枠に留めず、地域経済の課題解決と直結させる必要があります。

環境保全を通じて食糧問題を解決し、現地の生活が改善されてこそ、再生した森は永続的に守られます。「森を守るモチベーション」と「生活の安定」を両立させるため、私たちは「植樹」「農業」「漁業」を融合させ、生態系と人間が共生する理想的なモデルの開拓を目指しています。一般的には「ア

グロフォレストリー」と呼ばれる戦略です。これこそが文先生の提唱された「地球村コミュニティ」の具現化であり、完成段階のフェーズです。

### ●生態系再生によるメリット

かつて世界の農業は、効率を追い求める大規模単一栽培（モノカルチャー）を推進しましたが、その代償として土地は疲弊し、多様性が失われ、農薬や肥料に依存する悪循環を招きました。これを克服するため、生態系再生

## 大規模大豆農場



の基盤の上に経済活動を組み込みます。

森が豊かになれば、養蜂を営むことができます。日本とのフェアトレードを通じて地域に安定した現金収入をもたらします。

さらに森が生き返れば、林床が健全化して、願わしい養分が河川に流入し、水産資源にも好循環が生まれます。また、減少した

魚種の稚魚放流活動を森の再生活動と併せて実行することで、河川や海洋の生態系再生に寄与していくことができます。

こうして安定した収益を確保することこそが「森を創れば経済的に安定する」という結果を生み出し、現実に基づいた自発的な森の育成へと繋がることになります。

南米には「自ら森をつくる」「稚魚を放流する」といった慣習や文化が

## レダの養蜂作業



なく、「自分の手にあるもの」をなげ手放すのか？」と問われることもあり。しかし、植樹、放流のような「ために生きること」の実践を続けることで、現地住民の精神面に公共性の意識が芽生えるきっかけにもなっています。

### ●未来の幸せを今から創る

地球の「肺」を再生し、地域の「心臓」を動かす。未来の子供たちに豊かな森と生活を保証する。この歩みは、韓総裁が鮮鶴平和賞を通して掲げられる、「真の平和は、現状の問題解決とともに、未来の幸せを創ることである」という理念にも通じると確信しています。

環境問題と食料問題、貧困問題という三つの難題を同時に解決する持続可能な「た」とえ明日、地球が減るとしても、私はりんごの木を植える」というマルティン・ルターの言葉のように、私たちは現状を嘆くだけでなく、皆様とともに希望の森を育てていきたいと思えます。

### 稚魚を放流する少年



バイア・ネグラにて



レダで実行した、2025年パクー放流式。



# 「地球の反対側」で感じた生命力

## レダ訪問で得た信仰と活力！

【重白彩恵さん「短期レダプログラム参加者の感想」】

まず、今回のレダプログラム（昨年10月実施）で最も印象的だったのは自然環境です。

レダの自然は、本当に美しかったです。牧場には馬や牛、そして野生のワニやたくさんの鳥たちがいて、文字通り自然の生命力を肌で感じる事ができました。本当に心が解放されるような気持ちになりましたね。

レダへ向かう際も、私たちは船を利用したのですが、美しい朝日や夕日を見ながら、約6時間をかけて進んでいきました。6時間が一瞬で過ぎてしまうほど、本

当に自然に愛された時間でした。

当初は自然を見ることが目的だったのですが、南米摂理についてはほとんど知りませんでした。しかし、ツアーの中で南米摂理について深く学ぶにつれて、天の摂理の中でもっとも重要なのではないかと感じるほどになったのです。真の父母様が、南米摂理をいかに重要視し、多大な投入をされてきたかを知りました。

そして、御父母様の御言を実現するために、パラグアイの地で20何年間も歩み続けている先輩開拓者の方々の姿、また、御父母様の証人として私たちにその歴史を語り継いでくださる姿に、心



農業体験プログラムでジャガイモの植え付け。

から尊敬の念を抱きました。私自身も、今後は南米摂理についてもっと深く学び、貢献できる人間になりたいという思いが湧くようになりました。

現地の方々や食口の方々とも交流させていただきました。特に印象的だったのは、先住民コミュニティに住むインディヘナの方々のために、日本の先輩開拓者の方々が約3年間かけて地元の方々と共に作り上げた建物です。偶然にも、その建物の開所式に行きことができたのです。

そこには、今もなお開拓伝道さ



レダで宮脇方式による植樹をしました。混植・密植のマウンドにて。

信仰的な面では、パラグアイ川で釣りなどをしながら、「お父様もこんなところで釣りをされていたんだな」とお父様に思いを馳せたり、サタン屈伏の地を直接見せてもらったりもしました。こうした経験を通して、信仰的にもすごく深まったと感じています。



大規模発電所のあるイタイプダムを見学。

もまだ開発途中で、暑さや厳しい環境もあるのですが、そこすらも楽しくて、学ぶことがたくさんありました。またぜひ行きたいと、強く思っています。

また、ツアーメンバーとの間でも兄弟姉妹の絆を築くことができ、本当に語り尽くせないほど豊かな経験をさせていただき、すべてが楽しい日々でした。

実は、ツアーに行く前は、漠然とした不安な気持ちや、「活力がない」という悩みを抱えていたのです。しかし、レダから帰ってきて、自分でも驚いたのですが、不思議と不安がなくなり、活力が湧いてくる気持ちになりました。

日本とは地球の反対側に位置する、真の父母様が愛された土地での環境と出会いが、私を生まれ変わらせてくれた点があるのかもしれないと思いました。

御父母様の足跡をたどりながら、初めての経験をたくさんすることができて、すべてが夢のような時間でした。パラグアイもレダ





今年は、レダで四回目の正月を迎えることとなりました。例によって昨年の記事を読み返してみたいところ、「5年後のレダを描く」となっています。正直に言っても達成できませんでしたが、

今年の目標・レダプロジェクトの見える化

というところで、今年の目標は、「レダプロジェクトの見える化」ということで行きたいと思っています。

書いた時点でも、ちよつと話が大きすぎかな?とも思っていたのですが、まあそう思ってしまった時点で実現しないものかもしれませんね。

ただ、レダプロジェクトは、まあ、電気屋さん何ができるかということですが、今レダは、スターリンクが設置されています。

その環境を最大限利用して、さらにレダを身近に感じて頂けるようなことができればと思っています。

では、本年もよろしくお願ひいたします。

(山崎茂章)

あけましておめでとうございます

本年もよろしくお願ひいたします

2026年1月1日

日陽電気



21世紀だし21万尾のパクーを!

次期編集長のひとり言

2026年は令和八年で丙午(ひのえうま)の年。馬力の年?馬鹿の年? (笑) ▼日本には馬鹿になつてしゃかりきに働くと宣言(意識)する馬力系首相が登場ですが、レダもまた、馬力系の年になりそうです。▼レダはスタート以来維持されてい

すが、それをレダ・パラグアイでの事業収益によって運営する形に変化させる時になりました。あるいは、寄付も会員だけではなく一般の日本と世界の人からも集める必要が出てきています。それは高齢化や人口減少などいくつかの要因によります。現在のレダ維持にはざつくり月5百万円、年間6千万円ほどが必要。

▼レダの事業ですが、牛の実績があり、水産に可能性があり、食品加工ソーセージは熾烈な戦いの最中で、蜂蜜

がダークホースとして控えているという感じ。▼水産は昨年レダの西方の町、ロマ・プラタに販売拠点を新たに設置。11月11日、岩澤園長の開所の祈りでスタートしたところ、早速、記録的なパクー販売実績が上がり活気付いています。1~2日の販売で



想像図

160尾が売れたとか。年間販売目標が5千尾です。計算では2ヶ月の販売活動で目標達成するとのこと。▼ロマ・プラタの新

り、レダからの冷凍パクーの運搬です。いい運び屋さん来ないかなあ? 資金と同時に人も必要な段階です。▼水産のパクー販売は、パクーの商品名も新たに命名する計画で(近日中に発表予定)、販売用ホームページも作成中。その昔、ちよつとテストでホームページを開設したら「20万尾ほど買えないか?」という連絡が入ったという噂あり! 今、レダでは3~4万尾しか養殖していないから全然足りない! ▼そんなことで、馬力を上げればチャンスはあるんです。滝川くん年間目標5千尾はやめて21万尾にしましょう(笑) いや本当に。行ける! ▼1月14日には水産補強要員として岩本くん(26)も出発する。彼は水産の経験もあり、スペイン語もちよつといけて、動画も作れるから、気を付けな

一般社団法人  
南北米福地開発協会 事務局  
〒182-0021  
東京都調布市調布ヶ丘 2-15-1  
ピリアベルデ 407  
電話: 042-449-0183  
メール: office@asd-nsa.com  
ホームページ: https://asd-nsa.com

パンタール通信  
電子版 (Blog)



日・韓・西・英・ポの5か国語。スマホでもパソコンでもお読みいただけます。

LINE公式アカウント

レダの日常・日本の非日常



レダ現地の様子、プログラム・イベント通知・参加者募集案内などを配信します。  
←友だち追加はこちらから。